

あなたに薦める『この一冊』1月

「俺たちの箱根駅伝」上・下 池井戸潤(著) 文藝春秋



体育科教諭 國井 洸樹
高校 1年14組 担任



お正月、皆さんはどんな番組を見ますか？
私は正月2日と3日はテレビ前に鎮座し、大手町―箱根間往復217km「東京箱根間往復大学駅伝競走」を見ます。そこには20校の学生たちが1本の襷に思いを託す熱い姿があります。もちろん本番が熱いことは言うまでもないですが、その本番に至るまでのシード校以外の10チームを決める予選会での明暗、その予選会に基づいて本番エントリーする関東学連選抜チームにも熱い物語があります。
この作品では、古豪と呼ばれる明誠学院大学4年生青葉隼人の箱根ラストイヤー予選会敗退から話が進んでいきます。上巻では箱根本戦に向けた学生連合チームの話、下巻では本戦当日の話となっています。
学生連合チームといえば、青山学院大学監督の原晋さんが学連選抜チームの監督を務め、OP参加でありながら4位(参考記録)に入賞するというレースを思い出します。あれは箱根を見ている中ではすごく印象に残っています。この作品はそれを思い出させてくれるような熱い作品です。寄せ集めといわれる集団のなかでも各個人の熱い思い、チームとしての思い、それが伝わってきます。
これを読んでもう一度箱根を見ていただきたいです!!

池井戸潤 豆知識

[1963～]小説家。岐阜の生まれ。銀行勤務やコンサルタント業の経験を生かした作品「果つる底なき」でデビュー。「下町ロケット」で直木賞受賞。「空飛ぶタイヤ」「鉄の骨」など小説の他、ビジネス書も多数執筆。

出典：デジタル大辞泉, JapanKnowledge Lib.

★國井 洸樹(クニイ コウキ)先生の紹介★

- *担当科目・クラス
体育(高1年10・12・14組)
保健(高1年14組)
- *星座 → みずがめ座
- *趣味 → トレーニング・漫画・ゲーム・アニメ・コーヒー
- *自分の中学・高校生活
高校時代は部活動中心の生活で寝て起きて練習の繰り返しでした！
- *本校生の印象
上級生になればなるほど大人な考えを持つ生徒が多い印象
- *感動した本
「風が強く吹いている」三浦しをん(著) 新潮社
- *中学・高校時代に読んでおくことが望ましい本
「苦しかったときの話をしようか」森岡毅(著) ダイヤモンド社



図書館所蔵同著者の作品

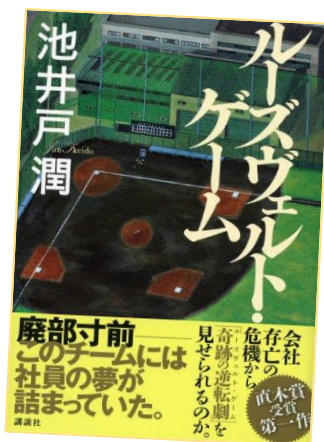
・ 陸王 集英社



勝利を、信じる。足袋作り百年の老舗が、ランニングシューズに挑む。このシューズは、私たちの魂そのものだ！
埼玉県行田市にある老舗足袋業者「こはぜ屋」。日々、資金繰りに頭を抱える四代目社長の宮沢紘一は、会社存続のために新規事業を思い立つ。これまで培った足袋製造の技術を生かして、「裸足感覚」を追求したランニングシューズの開発はできないだろうか？ 従業員20名の地方零細企業が一世一代の大勝負に打って出る！

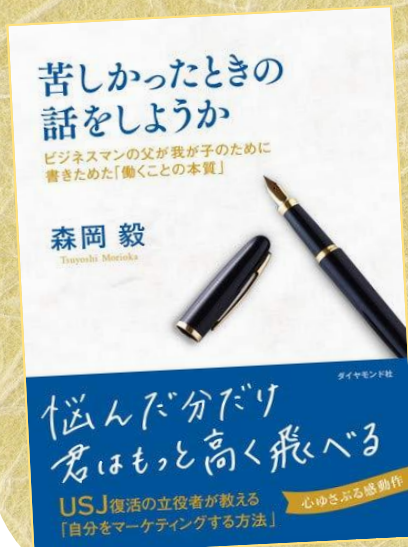
・ ルーズヴェルト・ゲーム 講談社

大手ライバル企業に攻勢をかけられ、業績不振にあえぐ青島製作所。リストラが始まり、歴史ある野球部の存続を疑問視する声上がる。かつての名門チームも、今やエース不在で崩壊寸前。廃部にすればコストは浮くが――社長が、選手が、監督が、技術者が、それぞれの人生とプライドをかけて挑む「奇跡の大逆転」とは。



「中学・高校時代に読んでおくことが望ましい本」はこちら！

- ・ 苦しかったときの話をしようか
ビジネスマンの父が我が子のために書きためた「働くことの本質」
森岡毅(著) ダイヤモンド社



「何をしたいのかわからない」
「今の会社にずっといていいの」
か」と悩むあなたに贈る必勝ノウハウ。悩んだ分だけ、君はもっと高く飛べる！ USJ復活の立役者が教える「自分をマーケティングする方法」。後半の怒涛の展開で激しい感動に巻き込む10年に1冊の傑作ビジネス書！

編集後記:池井戸潤さんの小説「ハヤブサ消防団」にちなんだ「ハヤブサ・ミュージアム」が昨年1月に開業しました。岐阜に足を運ぶ機会のある方は訪れてみるのもいいかも！